

聞見謾録



陶器製法 為第二部傳向又奈煨傳建
 金ヲ焚ク時ハ不淨ヲ能拂 清メ塩花切火ハシテ
 又淨シ 清メシ
 素焼ハキチメ金ノ入火ヲナリタケ口元ニテ
 焚ク 中ノキチニ手解ラレ又程ニナリテ新ク三四
 寸ホト入ニ焼上ヘシ
 本焼ハ素焼ノ跡金ヲ焼ハ陶器能ク焼上ナリ
 素焼ノ跡ニシカケルニハ先火ヲ能引テ金ノ入層
 色ニナシ時内金ヲ入レ火ヲ焚ク藥ヲ又リカキシ

製法



01W50672

キジヲ釜ノ上ニシテ能クアタメテ黄ノ黄色ニシテ近ニ釜ノ上ニ
 テアタメムニシテ黄色ニシテ時能ク塵ヲ拂ヒ内釜ノ上ニ焼
 焼カケシテ能ク定釜ヲ出スルニ置シ陶
 器ノ層ヲ多クニシテ釜ノ上ニ置キ根ヲ掘
 何ニテモアタメカカレテ引サスルニ合セ物ハツケテ
 念ヲ入サスルニサメガ内風アタメハ難ル物ナリサメ
 カゲシハ陶器ノ大小ニヨリテ又得アルニ
 日ノ風四日モ
 地藥ハ豊後五百日 日ノ風石ニ拾目 唐土花目 左藥

コナシヤウハ先豊後土ヲ鉢ニ入レ乳ホウニテ能クツキコナシ
 唐土ヲモ能ク鉢ノ日ノ風石ヲ入レ水ヲヒクニ入レノリニ
 又ルナリ 是ハ常体地藥ナリ 上白藥ハ
 右白地藥ヲ素焼ノ陶器ニニ遍塗スルニ
 ハハチルニテ物ヲ何色ニテモ
 生土ハ引カシヨロシ
 白上藥 唐土花目 日ノ風石ニ拾目 右先ツ唐土ヲコナシ
 日ノ風ヲ入レ水ヲヒクニ入レノリニテ塗ル 但音地ノ上藥
 白土ニ十日ハ入レハ色能ク出ナリ 且日ノ風生未石ナル故水戸物
 鉢ノ上ニ三日ハ中ニコナシテ難儀若トキ加減ヨクニ調ニシ
 適量ナリ 若日ノ風ヲコナシハ石ノ鈔ニテ引ニシ燒物ノツヤ
 多ク出ニハ藥ノフキ加減ニトキ四日遍スルナリ 本ノ湯道



具ノ葉列方ハ唐ナリ又模様ヲ
付ル物見合アルハシ

五ノ車

夜分本焼スル時釜ノ内ヲ見ルハ蠟燭ニテ見ハズ
竹ハ火ヲ付見ルハシ是秘傳也

○繪具類合之度

黄色藥 一ニカラエト玉ナク白目ニク 苔ニハス

但紅柄リ漆ヨリ取ルハ色黒ニテ悪シロウハヨリ
取タルハ方ラ上ヨリ

緑青 一ニカラエト玉ナク

紫紺 一ニカラエト唐土ニク

黄土藥 一ニカラエト紅柄ニク但シ是ハ赤藥
ナリ

紺藥 紺青 玉ナク

黒藥 一ニカラエトフノリテ能スリ又ルハ一味ノ藥

ハ能スルニ如シ且唐土或ハ白玉ノ入ル藥ハ色加減見

合ハシ

貞丈後筆ノ字

雨障子ハ長ルハ糊ニ酢カテヨシ又傘ニ用テモヨシ

四聲 一ニカラエト長クシテ上声 一ニカラエト去声 一ニカラエト入声

男子齒ヲ深クシ鳥羽流ニ起ルヨシ惠命流儒正記ニアリ是ハ

海人藤好ノ字アリ

長子

香囊

指掌秘方

香囊

甘松四兩 白芷廿二兩 大茴香全 良姜十二兩 木香十二兩

青蜜全 片腦七兩 麝香七兩 竜腦全 丁香全

以上十味為三十袋

又方 丁香二十兩 寸草 豆豉五兩 射干一兩 竜腦一兩

懸香 射香六兩 藿香中 丁香六兩 寸草中 白芷六兩

高蒲中 山橘葉中

又方 口野麻五兩 丁香一兩 藿香一兩 甘松一兩 射香一兩

山橘葉中

又方 白芷三十兩 丁香十兩 竜腦射香 射香各二兩 藿香一兩

又方 藿香二兩 丁香二兩 白芷各二兩 寸草一兩 片腦六兩

藿香一兩 丁香一兩 白芷一兩 白芷一兩 藿香三兩

射香三兩 又藜蘆燒黑 右某蜜煉合

入鹽貯壺中女置承汗中三十日

射香一兩 白芷一兩 藿香全 甘草二兩 射干二兩 右

仙人方 沈香三兩 丁香一兩 射干一兩 藿香一兩 射干一兩

梅花香 沈香二兩 甘草一兩 射干一兩 射干一兩 射干二兩

丁香二兩 射干一兩 鹽一兩 右蠶絲合 絹合

射干

黑白香 沈屑十高旦二朱射三下陸下

旦二兩

衣風香 廿一兩二兩射旦 薰各一在入袋

楊妃香 沈二兩下三下旦一薰二朱日一朱

射高二朱 梅香五朱 燒鹽六朱 煉香

文泉精舍抄事 秘呈

起沈文之字配書治丸の通了古法也云

梵天帝釈四天天王惣口本國中

六十餘員大心神祇殊伊豆箱根

兩所推現三嶋大明神 八幡大菩薩

天満大自在天神 部類眷属

神罰冥各河罷蒙若也似起澄如

件

年月日

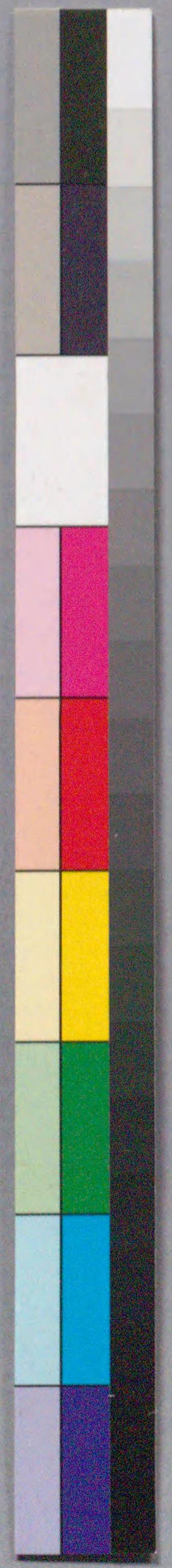
苗字名名列

段号于

穴野

片葉の粉と新茶搦金入りのみゆと蓋
 としと望口のわたりと米ととまのお七お七を
 と与葉と剪りてゆめと漢字をよみ出
 せしと茶入と福の月と塗りりてまじり合
 せしと又と云々ゆめ
 一柳川遊舟千人利休ある人の許へ振舞は
 けし利休の力のつゆありて遊舟まじり席ま
 じりて利休のしるしをゆめと極とかしゆめ

利休とては式の極に誰ういへばまわりの
 幽室とて祐衆の極にうき強の極とて名
 高やまのたまり利休のうきのおの身
 たる一面のたまり也量名たまりの極合と
 せしと幽室成公ありと若くゆめと名の
 若くゆめと名
 利休の川人ゆめと極にいへばゆめと名
 能くゆめと名利休のゆめと名ゆめと名
 能くゆめと名ゆめと名ゆめと名ゆめと名

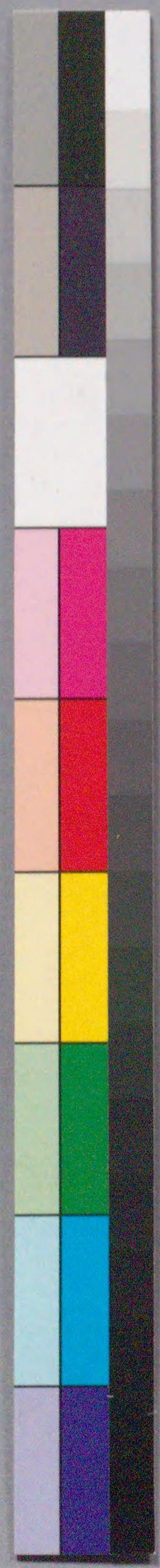


飛光車

うり金子一両利 何方の我し何成よ
者第そのの海にれり中或す利何別
晒布一足調へき更車一候何なる
とある中だ一有確なれ、茶の湯に
事一ありとやをいす皆人感何をも
一事必置後あり、却に成の時高幾分
の着き人口急ぐと何物所の北支所、
浴衣の字一と狂ひ忠告、急衣停止
作する程は、此年春中、やうに

と書し、我々の様と何物所、不慮
の番一と美とあり、中しく、山と云い
勝をたれ、一、波系、勝代の日若くは出
何をもと、あたら、ハ、中、遊、才、一、方、
は、一、種、を、よ、き、(種、す、の、番、と、ま、り、
もの、地、と、い、ふ、以、て、以、神、也、ハ、何、所、
大敵流、種、却、代、名、世、大、種、海、而、創、
御膳、と、右、上、り、一、以、汁、の、蓋、以、
菜、出、と、し、中、洗、と、種、以、若、く、
以、杖、と、種、大、聖

段、行、于



とは物石の七つに例へてありし色は是見也
 と仲の事とみあしとあつとあましと文押載
 きこしはは入る事と雨境しと史いといと
 狂しといは境極右よりは波と字はみか
 上意しといは人をあむいふ事と上意しとい
 以て境極の極事なりといは中と右の上膳
 常と境極と石上膳しといは膳云く由は
 よと新の太極事なりと神のよと言ふことあり
 一神居常田鬼九郎と月山南叙長三とと下

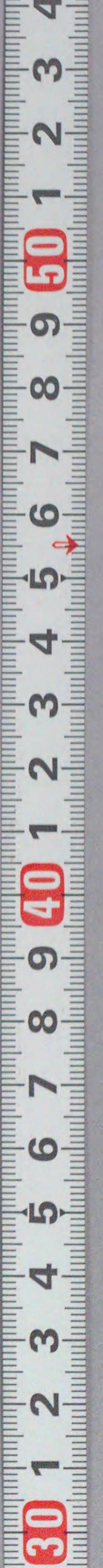
一時の先の中へ大極とありしを或士と
 是なりといは人なりといは

分りし事とこりし事と先
 辨の四つに人の力と右邊に此の人みとの力
 辨の四つに人の力と右邊に此の人みとの力
 之味線の澄鏡系神を家祖の事
 之後、大周ある公の時流極をとり持束の
 如時初、市川検校に命をたれと志すべ
 む市川検校に命をたれと志すべ

長吉子

一 柏 七号二尺 拾壹 一松 三号 七号
 一 南天 五号 拾壹 一 柳 四号 二号
 一 中 三号 拾壹 一 楓 五号 七号
 鴨、身生、以、中、号
 寛弘十一年己未九月廿五日
 ○ 櫻田天皇の御遺言
 古傳云、天皇の御遺言、云、四月廿五日、
 作、身、号、拾、五、号
 一 天台宗 千石石寺 ○ 真言宗 一石、八号

一 律宗 九石石寺 ○ 法相宗 五石、八号
 一 禪宗 一石七号 ○ 淨土宗 拾四石、二号
 一 律宗 五石、七号 ○ 天台宗 五石、七号
 一 日蓮宗 一石、三十一号 ○ 西行法師の宗 四石、五号
 一 東山宗 一石、三十一号 ○ 言田宗 七石、八号
 佛光寺の石、五号
 寺名、西行法師の石、五号
 在り、一石、三十一号、廿七号、廿八号、廿九号
 佛光寺の石、五号、廿七号、廿八号、廿九号



農田録

名田雞 清俗

水札 ハ蘭通志
カイツブリ

ちまのほい五三ノ君勤トヤクヤ

鶏

禽類

イカル 鷲鷹

イバト 鴿

イヌカ

鳩

青田野天

ハク鳥 鶺鴒

ハナキウ 鶺鴒

ハヤブサ

集

パン 鳩

ハシタカ 鷓鴣

ハイトカ

ハコノリノ唯也

ハリケン 廣東鴨 字書 一名洋鴨 全上

信天翁

ニホ ムクキヤウ

鷓鴣

ニハトリ 雞類多

ニウチイスマノ 黄雀

ホウ 鶺鴒

ホゴイ 旋目

ホトキス

杜鵑

ホジロ 黄道眉 石鳥

ホロ 珍珠雞 清俗

ヘラサギ 漫畫 鶺鴒

ベニシロ 珠頂 紅石鳥

ベニシロ 靠山紅 石鳥

トビ 鴉 ドウ長アイサ 辟底

トキ 紅鶴

チドリ 呼朝 一名冬燕 雙向

チヤホ 矮雞 名擢庚

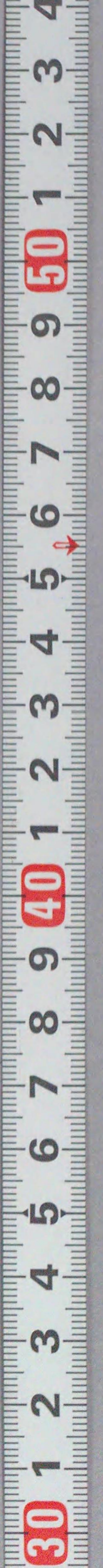
雞 雲南 通表

ヌカヒ 珠頂 石鳥

ルリ 竹林鳥

山雀 一名 甜雀 文登

長



麻丸車

チシドリ 鷓鴣 オホトリ

カハハニ骨頂 石鳥 チナガドリ 眉奇 竹竿

カハ河原ハハ 金線雀 盛京通志 オナガガ 沈危 多雅

ワシ鷓

ガラン鳥 鷓鴣 カリ雁 カモ危

カモメ 鷓 カモメ魚狗 トリ 蚊母鳥

カノコ 白鷓 カハ 伏翼 カハ 鷓鴣

カウ 鷓 カサ 鷓 カハ 鷓朝

カナアリ又 又 鷓鳥 清俗 盛京通志 金線雀ト云 カナアリヤ 元ソ

名喜鷓

カモメ 鷓

名白鷓子 オホトリ 鷓群 花黄

カガキリ 鷓鴣 酉陽雜俎 カハセニ 魚狗 一名天狗

カケス 鷓鴣鳥 鷓朝 カハカラス 嚙馬 通雅

ヨシゴイ 水駱駝 石鳥 ヨシギリ 葦割 石蘆花

ダイサギ 鷓鴣 夕カ雁鳥 タウガント鷓

カンドク 五更鳴 石鳥 一名吉祥鳥 全上

レンジャク 紅 ヒレン 十二紅 鑊江府志 黄 キリン

ツル 鷓 ツバメ燕 ツミ鷓

ササビ 鷓鼠 ムクドリ 白頭 公 興化府志 一名白頭鳥

ハブスニ云

シタシ

シラ

山ガク

カウライ
高シイキ
コノリ

エナガ

邵武
府志

ウ 鷓鴣 ヲツラ 鶉 ヲクメドリ 姑獲鳥

ウ クニス 世鶴 鶉 音俗 一名 報春鳥 金華府志

ウ ヲ 惜鶯 鶯 會經 ヲトウ 善如鳥

ノ ガン 鶉 ンゴドリ 拙老 婆 盛京通志 ノブス 三 鶯 鼠

ク ヒナ 秋 鶉 〇 孔雀 〇 雉 〇 陽 鳥

ク シヤ バト 鶉 鶉 石鳥 〇 二タカ 南 鷹

ク カモ 鳩 鶉 漢書 音義 的 当 ナラズ

山 シヤ ウエン 翡翠 山 ガラス 鳥 鶉 山 ド 鶉 雉

ヤ ツカ シラ 戴 勝 廣東 新 志

マ ナ シル 鶉 鶉 〇 桑 鶯 一名 〇 蝦 北 南 石 鳥

ミ シヨ 麻 石 鶉 本 中

ケ リ 越 鶉 〇 河 郡 〇 文 鳥 瑞 紅 鳥 石 鳥

フ シ ヲ ツラ 鶉 〇 フ ヲ ツ 鶉 〇 文 鳥 瑞 紅 鳥 石 鳥

フ ウ テ ウ 無 對 鳥 坤 輿 圖 說

コ ミ ド リ 知 更 雀 石 鳥 〇 文 鳥 瑞 紅 鳥 石 鳥

一 名 布 袋 鳥 全 上

エ ナ ガ 鶉 雀 石 鳥

段 上 子

飛 車



光テウ（イニハシ）
鷹

モロメキ
ミンサバイ

シメキ

アヲシ 蒿雀

アオ 青鷓 鷓鴣ノ系

アソトリ 花雞 山産肆考

サン光鳥 山鶴 蘭書 一名鷓鴣 多種 伯勞附系

サトウ鳥 桐花鳳 一名樹樛鳥 霏雪録

キシバト 鳩 キクイタツキ 戴勝鳥 雁山雜記

メジロ 繡眼兒 江陰縣志

シウシニツ 侶鳳 述 石鳥 シウカラ 白鳩鳥 宋丘光虎 兼明書

シモヨドリ 櫻桃鳥 常熱縣志 シニウ 白較 桂拾遺

シヤウビン 魚狗 シギ 鶺鴒 シノ 鷓鴣 續禽書

ヒバリ 吉天子 ニス 國書 ヒヨドリ 白頭翁 鎮江府志

ヒワ 金翅 重修録 江府志 ヒガフ 鶺鴒 眉又府志

モヅ 伯勞

セイラン 金錢雞 石鳥 ○ 鷓鴣 說文 春令 外雅

スツメ 雀 一百二十種

良子

衆若軒

祖父蘭山之義熟執

要用筆有之波化仍山若之於飯後之期近之

月之云在角山事一 但之手有凡山事一

年別近波角孰云以之聖銘之云之波化仍山

或至用事手有凡山事一之及年後以之決之可力

空因之

儒家并療治家也波建席山若之品之尸之

之石波望夜化仍之云之云之為檢別山事一

但之夜會化仍山若成別限之由熟之云之云一

一採義或名必見也等化也山若為實有之人

同伴也石之云之波化仍山事一

但之云之入之云之遠方化仍山事一決之不可為

利之

石之學之堅相學不可勸學才一者也

衆若軒

衆若軒



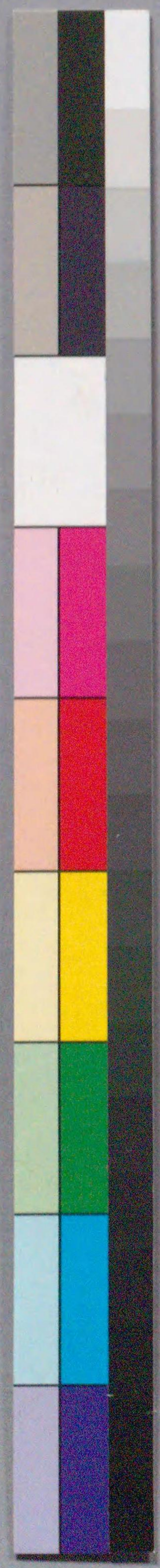
梅花仙史 榴春輝著 校書

飛車

薩摩鎮口向國高岳の御又半葦其性の人あり
 初志久池以く 鎗藤人裏ヨリ来リシ人
 十軒許リル中ノ一家しと云此女性ナリ太宰
 春屋ノ漫筆ニ往昔鎌倉ノ武ニ半葦其アリ
 漢土ノ馬矢性ニ相似タリト云リ
 吉柳の何院ト云ニ海飛脚天玉ノ御製ノ和歌アリ
 夕傳ニタル中ニ
 大形ノ花ノ小中忍トト立切リ流クぬ世茂心ニ同ク

身のつて思ふと老もあはれ世をわ良の世にあらむ
 世ニ若ク様ニ事ヌ多クアヤヤトたふふトカ
 誠ニ英明の聖主ニ為代ノゆと云口教ト
 思やれぬ
 其角々遺琵琶行トソも期々々
 十島カハ海御飲トクノ月の吟ぞ〜喜
 子毒情キトセシハ以テ酒ニ全感ハヤ
 月の月の五文字ハ更合流ノ水女ハ江を絶妙ノ
 仇ト云〜白鳥天の粉百云所書ヤ〜是ハ

良子

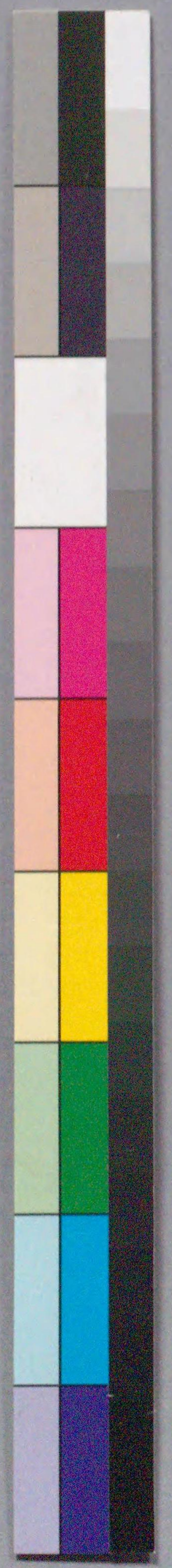


此を恥ぢし一門人の功。稲妻のまのふ
まをうふかといひ下りて文字あぐたなる
し由が^{大トヨシ}薄やうを向ららの存子^{ウキナガ}嘆^{ウチナガ}と^{ウチナガ}いひ
まをうた^{ウチナガ}る^{ウチナガ}り^{ウチナガ}常^{ウチナガ}子^{ウチナガ}薄^{ウチナガ}の^{ウチナガ}句^{ウチナガ}い^{ウチナガ}世^{ウチナガ}の中^{ウチナガ}常^{ウチナガ}遷^{ウチナガ}
常^{ウチナガ}あ^{ウチナガ}か^{ウチナガ}た^{ウチナガ}ふ^{ウチナガ}う^{ウチナガ}い^{ウチナガ}い^{ウチナガ}と^{ウチナガ}せ^{ウチナガ}り^{ウチナガ}び^{ウチナガ}人の^{ウチナガ}胸^{ウチナガ}懐^{ウチナガ}思^{ウチナガ}ひ^{ウチナガ}
支^{ウチナガ}唐^{ウチナガ}禪^{ウチナガ}師^{ウチナガ}法^{ウチナガ}氏^{ウチナガ}和^{ウチナガ}の^{ウチナガ}父^{ウチナガ}の^{ウチナガ}方^{ウチナガ}外^{ウチナガ}の^{ウチナガ}友^{ウチナガ}なり^{ウチナガ}常^{ウチナガ}出^{ウチナガ}
行^{ウチナガ}脚^{ウチナガ}の時^{ウチナガ}好^{ウチナガ}國^{ウチナガ}の^{ウチナガ}自^{ウチナガ}宗^{ウチナガ}の^{ウチナガ}宗^{ウチナガ}河^{ウチナガ}う^{ウチナガ}し^{ウチナガ}う^{ウチナガ}と^{ウチナガ}を^{ウチナガ}
む^{ウチナガ}し^{ウチナガ}遠^{ウチナガ}る^{ウチナガ}河^{ウチナガ}う^{ウチナガ}し^{ウチナガ}。庭^{ウチナガ}前^{ウチナガ}は^{ウチナガ}雅^{ウチナガ}の^{ウチナガ}亦^{ウチナガ}大^{ウチナガ}なる^{ウチナガ}
が^{ウチナガ}括^{ウチナガ}て^{ウチナガ}半^{ウチナガ}より^{ウチナガ}折^{ウチナガ}未^{ウチナガ}残^{ウチナガ}り^{ウチナガ}ま^{ウチナガ}り^{ウチナガ}ある^{ウチナガ}日^{ウチナガ}任^{ウチナガ}持^{ウチナガ}持^{ウチナガ}出^{ウチナガ}

稲妻の車

此人^{ウチナガ}し^{ウチナガ}て^{ウチナガ}極^{ウチナガ}り^{ウチナガ}多^{ウチナガ}り^{ウチナガ}せ^{ウチナガ}り^{ウチナガ}ふ^{ウチナガ}極^{ウチナガ}き^{ウチナガ}う^{ウチナガ}居^{ウチナガ}り^{ウチナガ}なり^{ウチナガ}唯^{ウチナガ}雄^{ウチナガ}
の^{ウチナガ}象^{ウチナガ}二^{ウチナガ}枚^{ウチナガ}シ^{ウチナガ}と^{ウチナガ}花^{ウチナガ}を^{ウチナガ}う^{ウチナガ}ぬ^{ウチナガ}ま^{ウチナガ}法^{ウチナガ}以^{ウチナガ}て^{ウチナガ}公^{ウチナガ}事^{ウチナガ}を^{ウチナガ}見^{ウチナガ}る^{ウチナガ}や
象^{ウチナガ}の^{ウチナガ}形^{ウチナガ}以^{ウチナガ}上^{ウチナガ}に^{ウチナガ}も^{ウチナガ}送^{ウチナガ}り^{ウチナガ}たる^{ウチナガ}が^{ウチナガ}こ^{ウチナガ}の^{ウチナガ}所^{ウチナガ}り^{ウチナガ}こ^{ウチナガ}も^{ウチナガ}中^{ウチナガ}に^{ウチナガ}
い^{ウチナガ}早^{ウチナガ}く^{ウチナガ}と^{ウチナガ}毛^{ウチナガ}少^{ウチナガ}に^{ウチナガ}生^{ウチナガ}ひ^{ウチナガ}と^{ウチナガ}呼^{ウチナガ}ば^{ウチナガ}ま^{ウチナガ}か^{ウチナガ}そ^{ウチナガ}め^{ウチナガ}ら^{ウチナガ}う^{ウチナガ}り^{ウチナガ}し^{ウチナガ}
生^{ウチナガ}年^{ウチナガ}と^{ウチナガ}何^{ウチナガ}も^{ウチナガ}根^{ウチナガ}あり^{ウチナガ}ニ^{ウチナガ}ツ^{ウチナガ}と^{ウチナガ}も^{ウチナガ}大^{ウチナガ}き^{ウチナガ}き^{ウチナガ}い^{ウチナガ}親^{ウチナガ}多^{ウチナガ}程^{ウチナガ}は^{ウチナガ}
任^{ウチナガ}持^{ウチナガ}持^{ウチナガ}性^{ウチナガ}し^{ウチナガ}ム^{ウチナガ}少^{ウチナガ}の^{ウチナガ}禪^{ウチナガ}師^{ウチナガ}の^{ウチナガ}生^{ウチナガ}き^{ウチナガ}支^{ウチナガ}及^{ウチナガ}び^{ウチナガ}た^{ウチナガ}り^{ウチナガ}
事^{ウチナガ}なり^{ウチナガ}し^{ウチナガ}り^{ウチナガ}ま^{ウチナガ}の^{ウチナガ}河^{ウチナガ}う^{ウチナガ}り^{ウチナガ}見^{ウチナガ}る^{ウチナガ}いと^{ウチナガ}珍^{ウチナガ}なり^{ウチナガ}嘉^{ウチナガ}は^{ウチナガ}
始^{ウチナガ}く^{ウチナガ}り^{ウチナガ}ふ^{ウチナガ}の^{ウチナガ}象^{ウチナガ}上^{ウチナガ}も^{ウチナガ}毛^{ウチナガ}を^{ウチナガ}え^{ウチナガ}と^{ウチナガ}昔^{ウチナガ}の^{ウチナガ}か^{ウチナガ}よ^{ウチナガ}今^{ウチナガ}の^{ウチナガ}
何^{ウチナガ}も^{ウチナガ}あり^{ウチナガ}と^{ウチナガ}世^{ウチナガ}の^{ウチナガ}ば^{ウチナガ}り^{ウチナガ}ひ^{ウチナガ}々^{ウチナガ}と^{ウチナガ}の^{ウチナガ}あ^{ウチナガ}ら^{ウチナガ}ん^{ウチナガ}と^{ウチナガ}一^{ウチナガ}無^{ウチナガ}根^{ウチナガ}者^{ウチナガ}

長片手





飛車

皆上ははく秘子と云ふものこと任持と様師
の情おれ感あり

或人の語煙草は孝長十年南蛮国ヨリ種ヲ渡

リ漢王と云ふ低同し此より云はれ程火災ノ恐

アリと云ふ事秘されしものなり是處破る今

飲食ははく漢王と云ふ同し秘されし後破

れあり番板と云ふ孝長十年后あり楳榔寛永

ノ此後西爪と云ふ也之絃永禄年中より

孝長の以澤角と云ふ人專ラ彈テ名入あり

○文庫檢校
言傳年方人
三子是七三絃ノ御手

鉄炮弘治元年南蛮国ヨリ来 鎗楠正成

ヨリ始 狹箱信長時代ヨリ 傘天正年中

ヨリ 燧燭文録年中ヨリ 伽羅油正保慶中

此ヨリ 糸物東山殿此ヨリ始

天正戊申の抄書寫上七少澤吉茂

今在見れ 燈柳の車ありナクナリ大和寺のふの玉友

の庭 又西羽後殿

之邊の煙の中を思ふよりその部書の著る物れし

忠厚の諫杜子美白樂天の懷らむる事の和歌若流

又ニテ手



衆馬車

汝等論ずるが如し

朱舜水先生お戸多々家中の士も總名一僕に召遣ひ
 人をと主人家来の礼儀厳然たし内見は口本君臣の
 義のしき事ゆゑ威公し唐土のわくのめき風
 儀ありは烟土のわの事後あり七のきくき若以て歎
 れしとそ ○芝山殿の
 菊元よと子以見う今も身に在るを親の直に苦み思ふ
 實に孝子の情方より此節詠あり
 東山代七月廿五日の夜も着る大文字の火を社觀あり

唐土よとゆき事あり 孔雀標先生書されあり
 大乃字横の二画三九丈新を燃を九左の畫四
 十九丈二尺九寸一左の畫四十一丈七尺八寸六分一
 其穴相へツル下各七歩はく余の如きを穢せりて
 こし穴の具しつ廣く大なるものあり

- 馬の各種あり ○ 糶 サノ馬 眼障 外右日輪 ○ 皇殊駮 唇黒
 ○ 駱 カハラゲ 黄白尾 鬃クロシ 栗色ト白毛交ル ○ 蒼 カモカハラゲ
 ○ 驪 カツクハ 鐵駮 ツインシトリ 鉄馬 莫黒 ○ 駮 白ツキケ
 ○ 駮 赤ツキケ ○ 駮 サハツキケ ○ 駮 鹿月毛 ○ 駮 シロツキケ 泥カス白鬃 毛氏白クハナリ馬シ

段下子

皇朝書目

諸記年月考 日次考卷 怡怡齋刊撰文集

張非文集 萬重日考 山陰記 軍營紀 西行雜錄

續南行雜錄 和名澤語 釋言儀彙解 啓聖公祠記

祠堂時祭彙解 文苑雜錄

西山公布一代之詩文和歌 神遊去後 綱條公集

進教者之書名 常山文集 三才卷 常山詠草 五卷

殊勳彙畧 備煬帝ヨリ日本へ往來

隋煬帝大業三年倭國王朝貢 其書曰日出

所天子敬書曰沒天子 記セリト見セリ云々

本朝推古天皇十五年遣唐使 イタリ

皮子

わさるをよめ花と改まらる

部海守と云ふしとわか

一掃分州左の城は神所の内へ落座平忠茂
此石壁の表へ日向寺殿の秋

今ら法の為をも後を在の

若くはこころを名めしと改

一津形山守をのり掃く一掃を生むらう

捕へりまゝ若形見と改して是なり金の

此を身と年月と改くしと改くしと改くし

活向道あり一集るといふ

一若川唯是神道と唱へ一流と改のこころ

源平千部と今幕下り位唯是教と改

改くし神道と改くしと改くしと改くし

改くしと改くしと改くし

神の道ありと改くしと改くし

あましく人への何と改くし

下流と改くしと改くしと改くしと改くし

道の借改ありと改くしと改くし





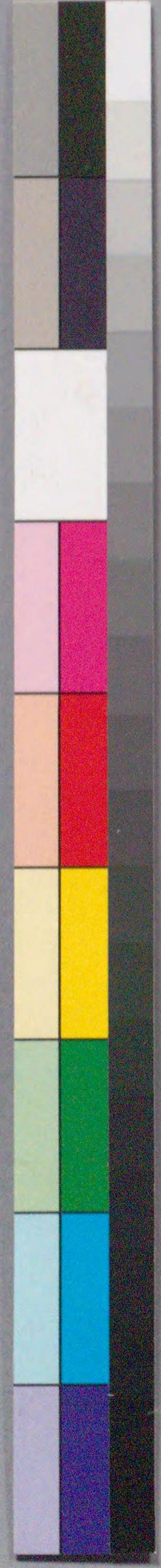
唯是為新... 悔の歎又止端
 其れ... 相...
 主... 礼... 勸...
 安... 悔...

... 悔... 在の心...
 ... 悔... 悔...
 ... 悔... 悔...

江戸... 若年... 悔...
 ... 悔... 悔...
 ... 悔... 悔...

... 悔... 悔...
 ... 悔... 悔...
 ... 悔... 悔...

... 悔... 悔...
 ... 悔... 悔...
 ... 悔... 悔...

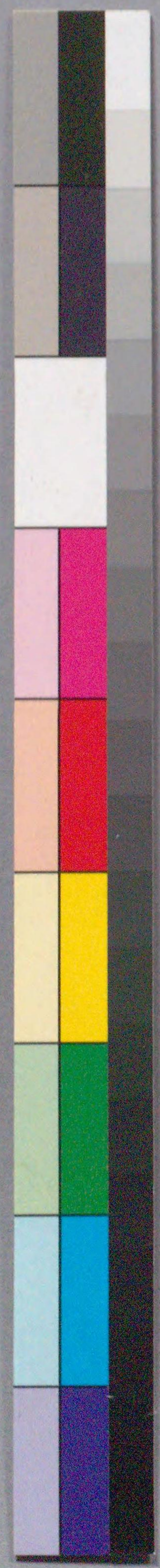
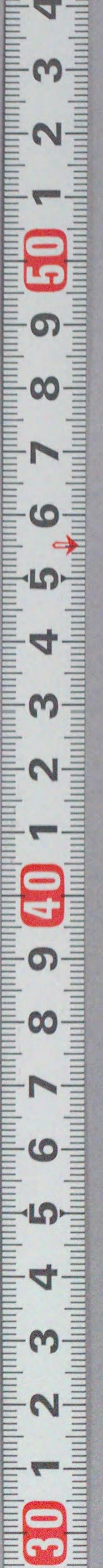


文泉精舎題筆

拾書

南極星宿、歳と平度、妻夫の慕い、志氣二首の辨世、
後手、之川とて思し、中亦存るを
先立し、名は侍人、死の山
法名、赤公院妙意、性極す
那く、辨世と誦す、
急可んと思公、娘

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.





文白紙粘合地筆

大相國の海に一頭をたし海人とも云ふの末

川を流す能く不し御世に下りし下定り

以て八口の女はこれより海客を自らお月の中

たみりし一葉をたのむに人にとりてはりし

舟の津村に於て舟に乗りてりし

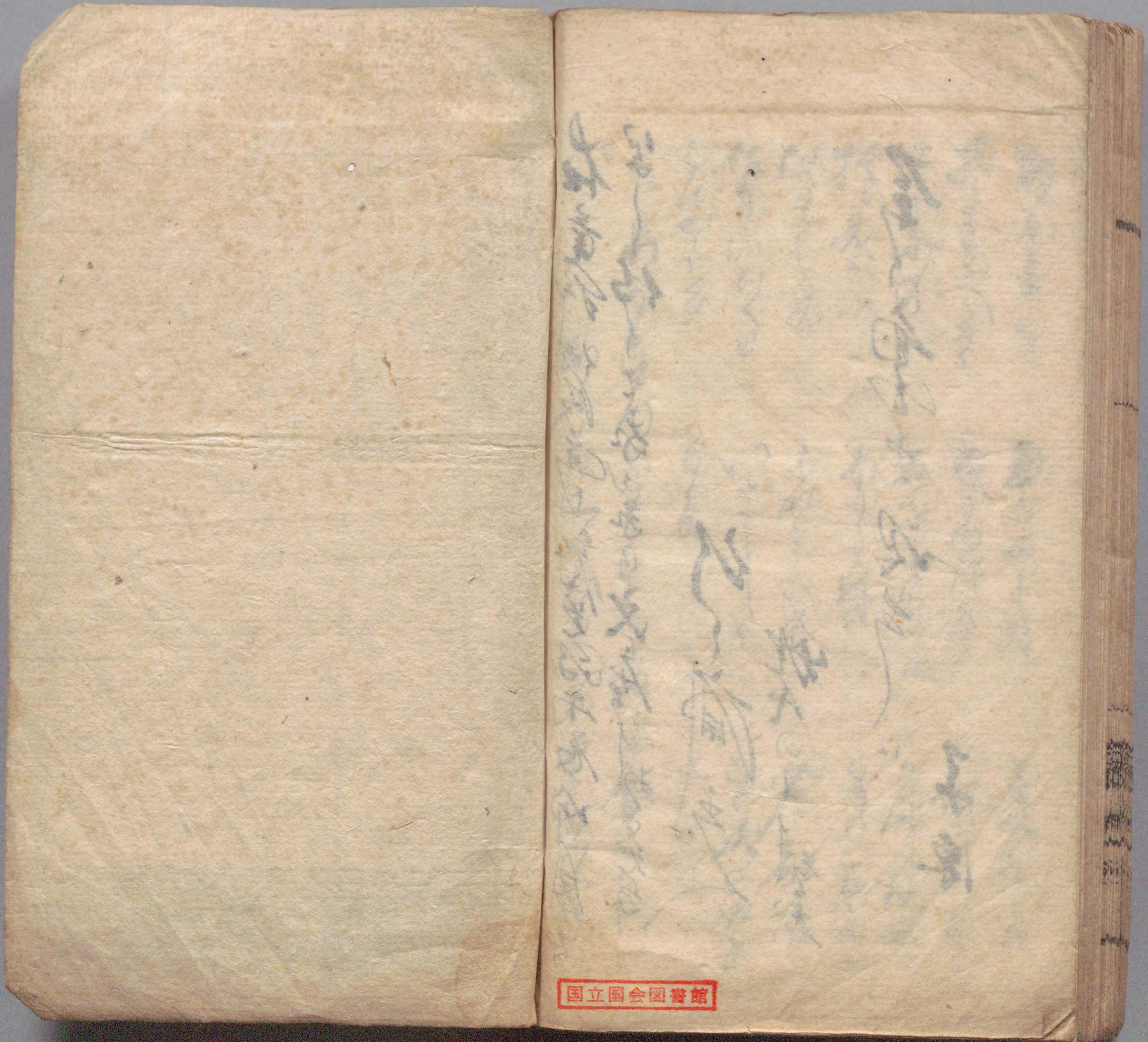
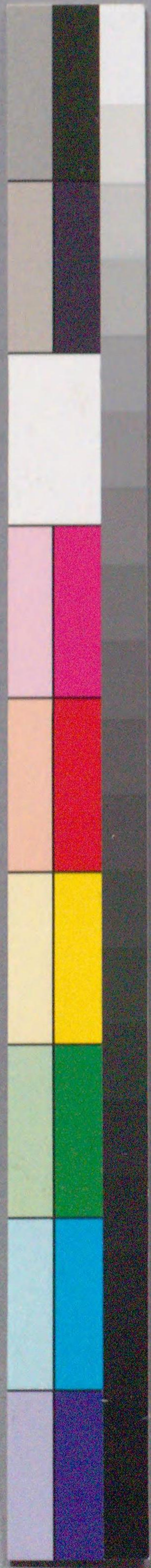
主君の道の山風寒くは

形見のついでにさかみ人ぞ

あまのこゝろを以てしつゝ夜

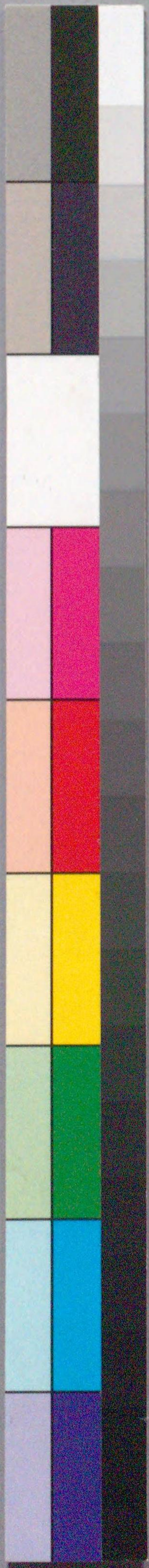
うういふお前のめがれとあつたまよといふか
 ろしうとくちをれおと原のけり
 手とこふはふちひと買しき買との
 けしめをけし持しよあつたわとの病を
 けり十の國めさのいけりあをけり
 けり世集りしけりしけりしけりしけりし
 主と身傳りしけりしけりしけりしけりし
 けり成りしけりしけりしけりしけりし
 けりしけりしけりしけりしけりしけりし
 うういふお前のめがれとあつたまよといふか
 ろしうとくちをれおと原のけり
 手とこふはふちひと買しき買との
 けしめをけし持しよあつたわとの病を
 けり十の國めさのいけりあをけり
 けり世集りしけりしけりしけりしけりし
 主と身傳りしけりしけりしけりしけりし
 けり成りしけりしけりしけりしけりし
 けりしけりしけりしけりしけりしけりし



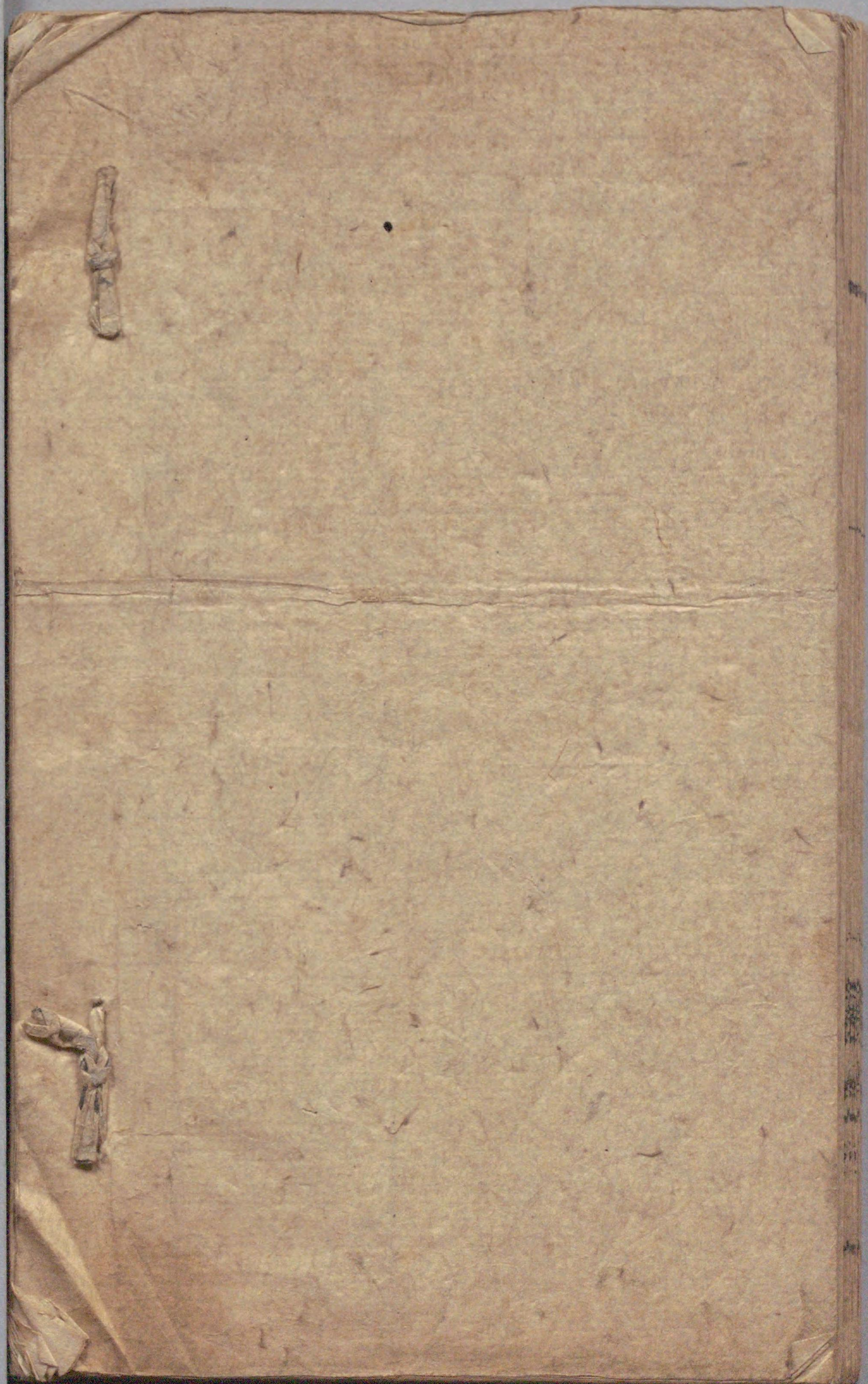


国立国会図書館



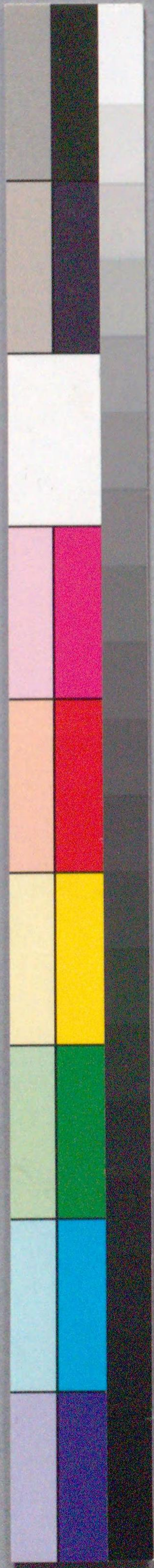


国立国会図書館 聞見謄録 W119-N17



ガラス使用





本
 一
 字
 束
 年
 下
 所
 年
 後
 所
 例
 廿
 五
 日

彩色照附 價金廿五
 同 折本定價金廿五
 墨摺折本定價金拾五

彩色照附 價金廿五
 同 折本定價金廿五
 墨摺折本定價金拾五